

東南アジア研究センター

1968年度第1・四半期報告

1968年4月から6月にいたる、1968年度第1・四半期の東南アジア研究センターの活動状況を要約報告する。

現地調査研究としては、前期にひきつづき福井捷朗助手（東南ア研）が、バンコク連絡事務所長代理として勤務するとともに、水稻の植物栄養学的研究をつづけている。川口桂三郎教授（農）、口羽益生助教授（竜谷大）、坪内良博助手（東南ア研）は、5月上旬クアラルンプールに赴き、本年度より予定されているマラヤ計画に関し共同研究者であるマラヤ大学経済・行政学部長 Ungku Aziz 博士らと打合せを行なった。本年1月インドに赴き、地形学の立場から川口桂三郎教授の水田調査に協力していた高谷好一助教授（東南ア研）は4月上旬帰国した。

交換計画としては、ロスアンゼルス・カリフォルニア大学（U. C. L. A）から David A. Wilson 博士を迎え、3月上旬より6月下旬まで6回にわたりセミナーを開催することができた。

出版計画としては、Symposium Series No. 4 として *Medical Problems in Southeast Asia* が刊行された。本書は、1966年10月開催された「東南アジア医学シンポジウム」の英文報告書である。

東南アジア研究センターは、本期から第2期3カ年計画に入った。本年度からは、過去4カ年間、センターの発展のためご尽力下さった人文科学研究所岩村忍教授の後をうけ、わたくしがセンター所長の職を引き継ぐこととなった。幸い第2期計画の推進については、第1期に引きつづいてフォード財団より30万ドルの援助が与えられることが決定している。第2期計画の開始という新たな段階を迎えるにあたり、センターのこれまでの歩みをふりかえり、センターに与えられた各方面よりのご援助・ご支援に感謝するとともに、心を新たにして今後ご期待にそうよう努力する覚悟である。

1968年6月

京都大学東南アジア研究センター所長

相 良 惟 一